

県ボラ連研修会に参加して

あしボ 小島 昭 吾

1月29日、県民活動サポートセンターで行われた県ボラ連研修会に愛川町ボラ連から4名、社協から1名参加しました。

雪降る箱根仙石原より2時間半かけて来た方を含め約110名が参加しました。

まず、来賓の県民活動推進部長落合幸臣氏から挨拶をいただきました。その中で、ともしび運動が30年を経過し、新行動指針を新たに策定したとの説明がありました。続いて、講師のながわボランティアセンター担当課長徳久和彦氏より、「ボランティア活動の進め方」をテーマに研修が行われました。

はじめに、昨年のねんりんピックで小田原市のペタンクチームが全国優勝した紹介がありました。次に「ボランティアを辞められない理由」についてグループ討議をし、グループごとに発表を行いました。

私たちのグループで出た意見では、健康維持・相手のためというより自身のため・楽しみが喜びになる・やめようと考えたことはない・大病時教えられた等の意見ができました。

他のグループで出た意見は、喜ばれる姿・ボランティアを待っている人が居る・仲間と別れるのが辛い・ボランティアに参加することで外出の理由が出来る・世話になった恩返し・役員の交代がない・後継者不足・最高の趣味等の発表がありました。

ボランティア活動を通じて得る事や良かった事が多い人ほど辞められないのだと思いましたが、又、後輩へ楽しさのPRや譲り合いが必要なのかなと思います。社協より情報発信を望みます。

発表後、講師よりボランティア・NPOの目的は、共に街づくりをやっていく事である。NPOはアピール出来る専門知識や技術力があるがボランティアはアピール力が弱い。「育成会・民生委員等との協力を積み重ねていきたいと思います」とまとめがありました。

各市町ともに共通の悩みを抱え、身近な問題を討議した事が有意義な研修会でした。



愛川町ボランティア連絡協議会

愛川町ボランティア連絡協議会は、会員相互の連携、親睦を深め、必要な研修を行うとともに、あわせてボランティア活動の推進を図ることを目的としています。また、愛川町ボランティア連絡協議会の活動やさまざまなボランティア活動について、広く町民の皆さんに知っていただき、より多くの方々がいっしょでも、ボランティア活動に参加してもらえようなきっかけづくりを目指しています。

現在は、町内で活動をするボランティアグループ及び個人ボランティアの情報交換やグループ間での交流、町、町社協事業の参加協力などの活動を行い、7団体、個人ボランティア9名の方が登録し活動をしています。

編集後記

愛川町ボラ連も多くの先輩や会員の皆様のご努力で20周年を迎えます。しかし、町内で活動していても、他グループの事は、よく知らないとの声が多く聞かれます。

ボラ連内での情報を共有化する為のひとつの手段として、平成19年度の総会でも要望がありました、会報を発行することになりました。

今回は、2月9日の「ボランティアのつどい」をテーマに編集しました。今後、皆様のご意見を頂戴し、紙面の充実を図っていききたいと思えます。

新年度は桜とともに始まります。楽しくやり花を愛で 手で温もりを 伝えあい

愛川町ボランティア連絡協議会

会報の発刊によせて

愛川町ボランティア連絡協議会

会長 高橋 政和

設立20年を迎える愛川町ボランティア連絡協議会は、歴代会長と会員、そして事務局のご努力による活動実績が、県内でも高い評価となっている事は、誠に喜ばしいことだと思います。

さて、ご承知の通り、近年の少子化と高齢化との相対で日本の高齢化の速度は今や世界一となっています。そして「超少子高齢化社会」での多様化する福祉需要は、益々増大している様相を目の当たりに見ることが出来ます。

一方、「わずらわしさもあつたが、かつては他人を思いやる営みが、日常的にあつた。今は見て見ぬふりの風潮が広がり、地域連帯感の欠如や、犯罪の抑止力の低下にも繋がっている」とも言われて久しいと思います。

私達の身近に、現実起こっているこれらの問題は、行政に解決を依存すると言う他人事ではなく、私達みんなで考え、コミュニケーションとして助け合う、住民参加の福祉活動が暗示されているようです。

既にこれらへの危機感住民を動かし、みんなで解決しようとする気運となつて、新たな地域扶助活動が生まれているなど身近にも、そして報道からも知る事が出来ます。

私達ボランティア活動も、新しいニーズに備えて、足元をも含めて再考してみる事も必要かとも思います。

この度の会報の発刊にあたり、地域に根ざす多くの住民参加のボランティアが「気軽に」「出来る事」「出来る範囲で」誘い合い、目配りある地域福祉活動として広がって行く事を願ってやみません。

第1号 平成20年3月発行

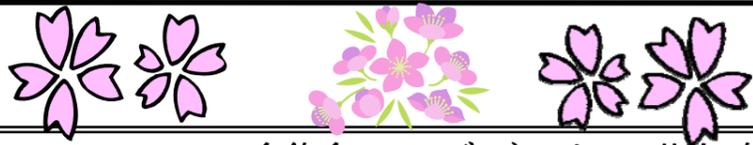
愛川町ボランティア連絡協議会
愛川町角田257番地の1
(町社会福祉協議会内)
☎ 046-285-2111

愛川町ボラ連視察研修



平成19年10月6日(土)ボラ連会員29名で横浜市鶴見区の東京電力火力発電所を見学しました。電気を通じて、環境・省エネの大切さを考えた1日でした。

愛川ボラ連だより



ボランティアのつどい



全体会

全体会 コーディネーター 井上 桂 副会長より・まとめ

ボランティア団体の会員をはじめ、町民の方々が多数参加され、有意義な時間を過ごすことが出来ました。今年、今までの反省から、まず全体会を行い、各加盟団体の紹介を行い、後半、ワークショップ方式の活動紹介を行いました。また、愛川東中学校の生徒さん達の参加もあり、若い方を頼もしく感じました。

各団体とも、様々な工夫をしながら、継続的な活動を進めている様子がよくわかりました。発表の中では、次のような課題が挙げられていました。

- ・ 会員を増やす工夫、会員の高齢化、人材育成の難しさ、指導者不足
- ・ 用具や器材の調達、保管場所の確保
- ・ 活動を広めるための活動内容、会を活性化させる事業の工夫
- ・ 会議や定例会をするための場所の確保

ボランティア連絡協議会が、これらの課題解決のためにお役に立てば良いと感じました。

2月9日(土) 愛川町福祉センターで
“ボランティアのつどい”を行いました。

【拡大写本 しおさい】

通常の印刷物では見えない弱視の人を対象に、文字を拡大した本をオーダーメイドで作っています。利用者や打合わせをして、ニーズをよく把握し、利用者本位に徹しています。本1冊を拡大写本にすると3冊〜4冊にもなり、分担しても同じに仕上がる様、仲間と打合わせし、人海戦術で和気あいあいとやっています。

【録音ボランティアグループ かえでの会】

別府さん

町内の視覚障害者に広報誌や読者の希望に応えた録音物の作成をしています。現在は宮尾登美子「篤姫」に取組んでいます。14名で分担し90分テープ19本と膨大ですが、頑張っています。町内には70数名の視覚障害者が居ますが、登録・利用者は十数名です。視覚障害者の方が居りましたら「かえでの会」を紹介して下さい。平成20年度は器材などのデジタル化への対応が大きな課題です。

【味彩会】

小島さん

「私たちの健康は、私たちの手で」を目標に、バランスの取れた食生活の普及に努めています。町の「食生活改善推進員養成講座」を受講修了した者で活動しています。今年8名加入しました。一緒に活動しませんか。

【マジック愛川クラブ】

柳川さん

20代〜80代の会員で楽しんでいきます。小学校や老人会等で年間20回ほど公演しています。人前でやると身体に刺激を与えて健康にもよいですし、うまく出来た時は、達成感でうれしいです。是非参加してみませんか。

【個人ボランティア】

山田さん

個人でボランティア活動をしている人で組織しているグループです。空いた時間を使って高齢者の日常生活等で行政が手の届かない事を、「お互い様」の感覚でお手伝いしています。「大きな耳・小さな口・優しい目で見守る」を目標にやりたいと思っています。個人で活動されている方、グループに入りませんか。

【愛川シニアボランティアグループ あしボ】

佐藤さん

発足して4年と日は浅いですが、お蔭様で知られる様になって来ました。一人暮らしの高齢者の支援や各種イベントで子供と遊んだり、幅広く活動しています。芋煮会等で親睦を図り楽しく活動しています。良い仲間ですよ、お父さんたちを待っています。

【愛川国際交流クラブ】

荻田さん

外国籍の方々に日本語教室を開いています。受講生80名を教師13名で教えていますが、教師が不足しています。能力差が大きく教材選定やスケジュール管理を工夫しています。沢山の受講生を効率よく指導するには、どうしたらいいか、知恵を貸してください。その他、国際交流フェスタ、年忘れフェスタ、施設慰問等活発に活動しておりますが、こども人手不足です。是非参加してみませんか。

第2会場



愛川シニアボランティアグループ

「あしボ」活動紹介

第4会場



愛川町録音ボランティアグループ

「かえでの会」活動紹介と体験

第6会場



愛川町内の地域作業所製品展示・即売会

- ・ 愛川町ありんこ作業所保護者会
- ・ NPO法人 あいかわ工房
- ・ フリースペースグリーン

ワークショップ

第1会場



愛川東中学校JRC特別委員会活動紹介

*JRC: 青少年赤十字 Junior Red Cross の略

第3会場



拡大写本「しおさい」活動紹介と体験

第5会場



愛川町食生活改善推進団体「味彩会」

活動紹介と体験





愛川レクリエーションクラブ

連絡先 愛川レクリエーションクラブ 事務局 辰口 TEL 285-4349

私たちのクラブは、日本レクリエーション協会公認指導者が中心になって作っている団体で、今年で30周年を迎えます。現在25名の会員で様々な活動を展開しています。

愛川町ボランティア連絡協議会をはじめとして、愛川町レクリエーション協会、神奈川県レクリエーション協会等に加盟しています。

活動内容は、ゲームやソング、クラフト、ニュースポーツ等を指導する他、行事の企画や運営等も行い、町民や県民の皆さんに集うことの楽しさ、余暇の充実や健康な生活を送るためのノウハウをお届けしています。

年間の主な行事

4月 野草の会

クラブ設立以来、継続して行っている行事で、会員が皆、毎年楽しみにしています。

春の野草を摘み、桜の咲き誇る下で食べる野草の美味しさに感動し、共に喜び合える仲間がいる。「レクリエーション活動をしてよかった」と思える行事です。

6月 町民ウォークラリー

愛川町主催の健康まつりの一環として開催。

3コースを設定し、愛川町の歴史や自然にふれ、仲間と歩いてまわるゲームです。

9月 ふれあい広場

田代運動公園に、障害のある人もない人も、老若男女が集い楽しめます。ここでゲームを担当しています。

9月～11月（8回コース）

日本レクリエーション協会の資格を取得する講習会です。昭和50年から続いて、理論や実技を学びます。だれでも、参加できます。

10月 ふるさとまつり

福祉センター3階で、クラフトを担当しています。1階では、ゲームを通して団体の紹介も行っています。

11月 会員研修会

会員の親睦と余暇の充実を兼ねての研修会を行っています。写真講座、オカリナ製作、絵手紙講座、切り絵講座や一泊の旅行をすることもあります。

12月 しめ縄づくり

1年の感謝と新年への希望を込めて、世界で一つのオリジナル手作りの、しめ縄を作ります。感動、感謝のひとときです。

2月 ボランティアの集い

ボランティアグループの発表や情報交換の場。お互いが協力し、来場者も参加できるよう、いろいろと工夫して毎年行っています。

以上の他、子ども会、老人会、自治会等の地域行事等にも協力しています。いつでも、どなたでも、入会できますので是非お声をかけてください。

会員一同お待ちしております。



食生活改善推進団体 味彩会

今、全国で「食育」という言葉が取り上げられています。私たちは厚木保健所を拠点に、食生活改善推進委員として、厚木、海老名、座間、愛川、清川の5市町村で成り立ち「あゆみ会」という名の団体に所属して活動しています。愛川町支部は「味彩会」という名称で、現在98名の会員が活動しています。

町の「食生活改善推進委員養成講座」を1年間受講し、受講修了後、入会して頂いています。新しい会員と共に食生活の安全とバランスを取り入れた食事を伝達し、町民の皆様の健康づくりに励みたいと心がけて、頑張っています。

主な年間行事

① 町委託、一人暮らし老人給食サービス(年11回) 半原老人センター

8～9人の会員で料理献立を作成し、昼食作りをします。
お年寄りの皆さんが、「おいしかったよー」と口々に言って下さいます。
いつもうれしくやりがいがあります。



② 町委託、デイサービス(年12回) 町福祉センター

昼食作りです。

③ 農政課委託、ごはん食推進普及料理講習会(年3回) 農村環境改善センター、レディースプラザ

④ 町、社協、ボラ連事業参加

あいかわ健康まつり、ふれあい広場、ふるさとまつり、福祉大会、ボラ連の視察、ボランティアのつどい、他



⑤ 養成講座(2年に1回) レディースプラザ

ぜひ調理実習や講義を受けてボランティア活動をしてみませんか！！

⑥ 味彩会役員会(年12回)定例会(3回) ラビンプラザ、レディースプラザ利用

今年は定例会活動をもう少し多く計画して居ります。



⑦ 県委託「親と子の料理教室」

「減ら脂Naさい、増やしな菜 講習会」レディースプラザ

他、年度ごとに変ります。

⑧ あゆみ会事業の参加(年8～11回) 厚木保健所

料理講習や講義等々です。
カロリー計算や発表をしたり、デモンストレーションもして盛りだくさんのお勉強になります。



お料理をしている時は**ピンクのエプロン、ピンクの三角巾**をしています。

いろいろな場所で見かけましたら声をかけて下さい。
入会をお待ちしております。